月刊
新翔タイムズ
第52号
新翔タイムズ編集室
発行・熊野新聞社

便利さの裏に潜む危険性
1年生を対象に情報モラル講座

11月6日の5限、1学年を対象に、情報モラル講座を開いた。講師はNPO情報セキュリティ研究所の中井さんで、クイズや動画を交えながら、情報機器の利用に関する危険性とその予防、モラルなどについて分かりやすく説明してくれた。

その中で特に注意しなければならないこととして、次の4点が挙げられた。

①スマートホンのセキュリティーをしっかりと行うこと

インターネットやアプリ上にはウイルスがまん延しており、すごい勢いで増加し続けている。対策（セキュリティー）を講じていないと、個人情報の流出、悪用につながる。

②ワンクリック詐欺に遭ったらまず相談すること

インターネット上で迷い、訳の分からないうちに「ワンクリック詐欺」に遭ってしまったら、自分で解決しようとせずに、大人に相談すること。自分たちで解決しようとするとどんどんわなにはまり込み、多額の被害を受ける恐れがある。もし、架空請求が来た場合、相手がこちらの住所や氏名などを知っている場合は、危険な状態にあると考え、無視せずに両親などに必ず相談すること。

③ブログやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）上への個人情報の書き込み

住所や氏名はもちろん、個人が特定される情報は公開しないこと。また、現在のスマートホンには「ジオタグ」と言われる機能がついており、その機能が働いたままの状態で撮った写真には、いつ、どこで撮影したものかなどの情報が自動的に含まれる。安易な気持ちで写真などをネット上に公開すると、「ジオタグ」のデータから場所を特定され、詐欺やストーカーに狙われる恐れがある。

④ネット上で出会った人を信じ過ぎない

ネット上の言葉や表情・声には悪意が潜んでいることがある。そのような人にとって、高校生をだますのはいとも簡単なことである。信じ切ってしまえば、周りの意見も聞き入れられなくなり、気が付いた時には取り返しのつかない事態に陥ってしまう。自分は大丈夫と決めつけることのないように。

パソコンやスマートホン、アプリなど、情報に関する機器やソフトは急速に発展、普及しており、法の整備や子供たちを守る環境はそれらに追い付いていないのが現状です。生徒たちには、便利さの裏には危険が潜んでいることをしっかりと伝えながら、フィルタリングの設定など、できることをきちんと行うことが大人の責任だと考えます。

地元警察官の講話

11月9日の4限、新宮警察署の地域課長・廣田典生氏を講師に招いて、全校生徒を対象に、「地域の警察官からの講話」を実施した。

冒頭から、「友達が悪いことをしようとしたら止められる人になること」を伝えられた。これは、本日、最も伝えたいこととして何度も繰り返された。

その後、本地方の現状として、窃盗、特に自転車窃盗が多いこと、場所（新宮駅・オークワ仲之町店・イオン・スーパーセンターで多発）、対策（新宮駅でのワイヤロックの提供）などが話された。

また、窃盗罪に関する刑法を引用し、「財物」とは被害者にとって大切なもののことであり、それは犯人ではなく被害者が決めること。たとえボールペン1本であっても窃盗罪は成立する。さらに、日本の法律では、「一緒にいただけ。ぼくは知らない」は通用しない。盗んだ人と同じ罪に問われる。そうならないためには、「ぼくは止めるよ。あっちへ行く」と宣言して、その場から離れること。その他、友達が盗った自転車に乗ると「盗品運搬罪」に問われ、窃盗罪と同じく、10年以下の懲役または50万円以下の罰金が課せられる。盗った自転車を買ったりもらったりしても同様に罰せられるので絶対にしないようにと教えられた。

最後に、自転車運転のマナーと罰則について触れた。賠償については相手に大けがをさせたり、死亡させた場合、500万円を支払わされるケースも見られる。スピードの出し過ぎや飛び出しなどには十分に注意し、交通法規を守り安全に自転車を運転することが話された。生徒たちには、自分の行動を正すことは、自分だけでなく、友人や家族を守ることにつながるということをしっかりと心に留めて、生活してほしいと考えています。

団体で4位
県高校ワープロ選手権

和歌山県高等学校ワープロ選手権大会が11月10日本校で行われ、県内の学校6校（選手数28名）がワープロ入力の「速さ・正確さ」を競い合った。

団体3位以内に入れば来年5月に行われる近畿大会（開催県＝奈良）への出場権が得られる。本校からは4名が出場し、団体で4位になり近畿大会への出場権を得ることができなかった。

佳良賞（各校上位1名）に本校からは2年4組の東岡田莉さんが選ばれた。

大会後、出場した選手は来年6月に行われる全国大会への出場権を懸けた予選会に出場し、全国大会出場を目指したいと話していた。1位となった和歌山商業高校の選手の10分間の字数は1393字（誤打数1字）で、速さも正確さも兼ね備えた選手だったので、見習ってがんばってほしいと思う。

クラブ紹介
バレーボール部

「努力は勝利に繋ぐ鍵」をテーマとし、ベスト8を目指し日々練習に励んでいます。部員が少ない上に、けがをしている生徒が多く、まともに練習することができない環境の中、先月行われた選手権大会で、接戦の末ベスト16という成績を残すことができました。

また、プレーに自信がなく、練習試合で競った試合も勝ち抜くことができなかった部員たちにとって、大きな自信につながる大会だったと思います。今後も目標に向かって部員一丸となって技術を磨き、仲間と支え合いながら練習に打ち込んでいきます。毎日サポートしてくださる皆さんに感謝です。今後も応援よろしくお願いします。

◆先生の紹介◆
塩路友理先生

皆さん、初めまして。本年度から本校に勤務させていただいております、塩路友理（しおじ・ゆり）と申します。担当教科は保健体育で、部活動は女子バスケットボール部の顧問をしています。私は和歌山県和歌山市出身で、大学は愛知県、大学院では大阪府で生活をしていました。さまざまな地域での暮らしやとても大切な仲間との出会いがあり、他府県での生活も考えましたが、高校生のころからの「教員になって地元の和歌山県に戻って来たい」という強い気持ちが勝り、和歌山県での生活を選びました。

私にとって本校は3校目の勤務校となります。私が本校に勤務が決まり、辞令を頂いた時にまず行ったのが自動車のルート検索でした。前年度は笠田高等学校に勤務していたため（笠田高等学校は紀北地区にあります）、4時間10分と表示された時には大変驚き、とにかく遠いなと感じました。私は今まで新宮を訪れたことがなく、新しい環境で生活をするのはとても不安でしたが、自然豊かなこの地に移り住み、新翔高校の皆さんの元気で活力ある声にいつもエネルギーをもらっています。また教職員の方々からもたくさんの助言や指導を頂き、充実した毎日を送っています。

よく「失敗は成功のもと」という言葉を耳にしますが、私は誰でも失敗はすると思います。その失敗から何を学び、次に生かすのかが大事です。弱さを知っているからこそ、次の挑戦ができ、自分自身の強さになります。私が学生のころ、常に頭にあったことは「失敗しないようにしよう」ということでした。部活動においても、受験においても、無難な道をたどってきました。しかし、そんな考えで行動していると自分自身の成長にはつながらないということを私は学びました。皆さんには、この高校生活でさまざまな経験をしてほしいと思います。そのためには「失敗」をしてください。そして「生きる力」をつけ、社会に出て行ってほしいと思います。

最後に、教員としてまだまだ未熟ですが、分かりにくいことを分かりやすく教えられるよう心掛け、一人でも多くの生徒に保健体育に興味を持ってもらえるように頑張りたいと考えています。生徒の皆さんが充実した日々を笑顔で送れるように頑張っていきたいと思いますので、これからもよろしくお願いします。

―「ロボットコンテスト」予選―

「全日本小中学生ロボット選手権」の東牟婁ブロック予選会が10月27日、本校キャリア教室にて開かれた。同選手権は今年で6回目を迎え、子供たちがものづくりの楽しさを実感し、将来ものづくりに携わる人材として活躍することを期待して開催されている。小学生の部で松本芳樹君（三輪崎小6年）が、リーグ戦、決勝戦を見事勝ち抜き、12月16日（日）に御坊市立体育館で行われる本戦への出場を決めた。

授業参観と中高連絡協

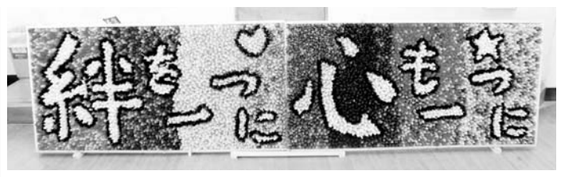
きのくに学び月間が11月1日から始まった。1日の4限目には授業参観が行われ、育友会役員が参加した。参加した役員は生徒の様子や授業の状況などを熱心に見ていた。

午後からは中高連絡協議会を開催し、新宮市、東牟婁地方、田辺市本宮町の10中学校が出席した。

竹村校長から本校の教育方針や取り組み、生徒の状況などについての話の後、教務部長から来年度の入学選抜試験について説明を行った。

また、その後中学校の先生方と新翔高等学校1学年担任団との懇談があり、各中学校の先生方は、送り出した卒業生の高校での様子について熱心に耳を傾けていた。

第38回 新翔高校七海祭



11月17日「第38回七海祭」が催された。文化クラブの作品展示、8クラスの展示制作、7クラスのステージ発表、恒例の新翔マーケット、食物バザーなど、悪天候にも負けないにぎわいを見せた。

クラスの展示制作は、ネット壁画や、3000本のペットボトルを使った、ペットボトルアート、クラスで一羽ずつ、丁寧に折って作った折り鶴アートをはじめ、いずれもクラスの思いがこもった作品ばかりだった。

竹村貢校長

ステージ発表では、各クラス、趣向を凝らした発表で、中には、担任の先生が登場する演出もあった。今年初めての企画である新翔ソニックでは、ダンス自慢、歌自慢の生徒が登場し、会場を笑わせた。